

[Bunkyo GCI 学びの特徴1]

Bunkyo GCI の英語教育

Bunkyo GCI Program

1~4年次

自分たちらしく、世界中の人たちと通じ合っていこう。
アイデンティティーを大事にするのがBunkyo GCIの英語教育です。

What's グローバル英語

社会背景

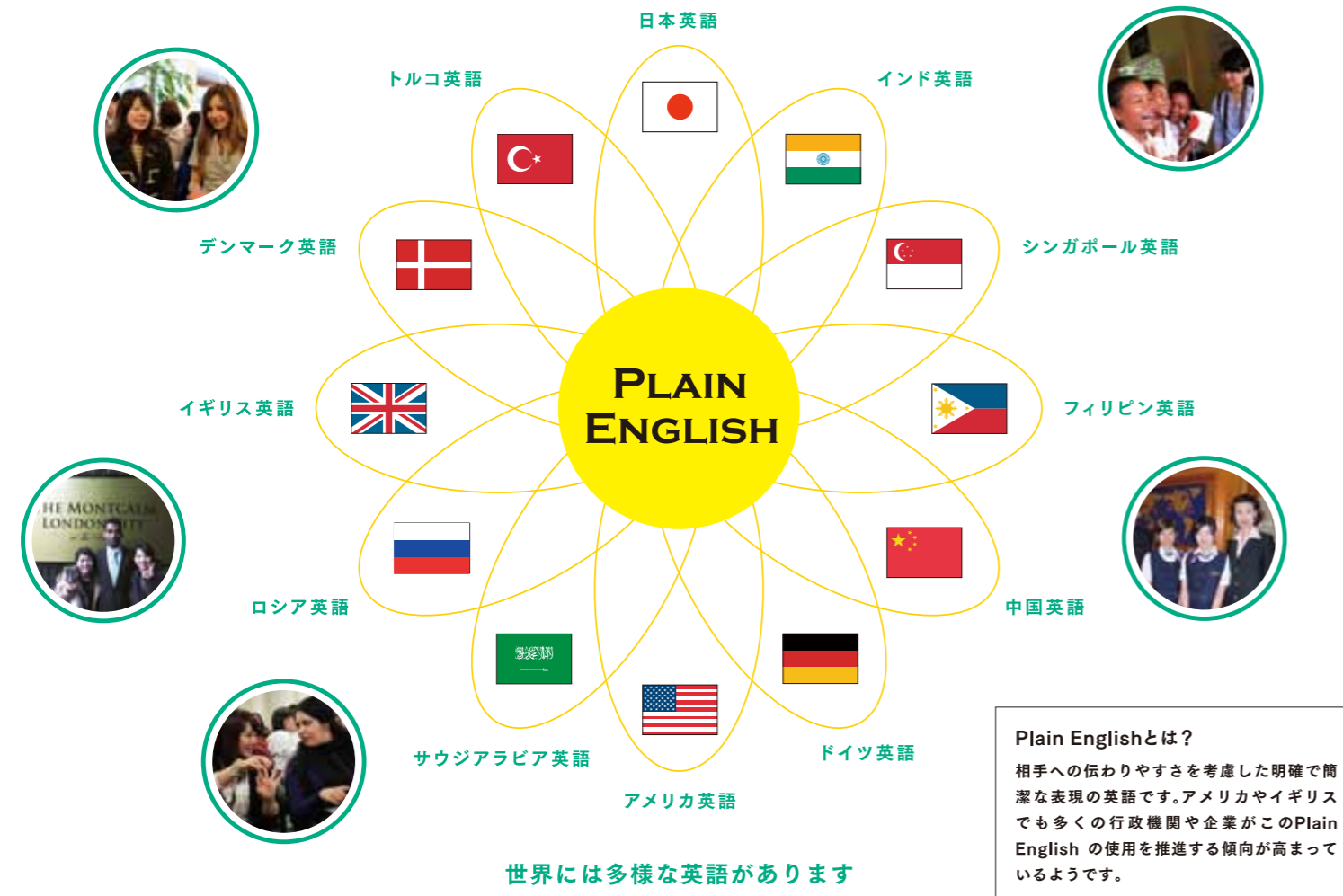
なぜ「グローバル英語」か

イギリス人やアメリカ人の言葉だった英語は世界各地に広がり、英語を母国語とするネイティブスピーカーが3億人程度なのに対し、非ネイティブで英語を使う人は10数億人となりました。インド人独特のインド英語、シンガポール人らしいシンガポール英語など、各国の文化が反映された多彩な英語が話されています。日本の英語教育もネイティブにいかにか近づかばかりを目指すのではなく、むしろ、これから増えていくユーラシア(アジア・東欧)の人たちをはじめとした、世界中の人たちとコミュニケーションするための英語教育へシフトしていこうという背景があります。

基本姿勢

アイデンティティーある発信

グローバル英語とは、どの国の英語を覚えようということではなく、どの国の英語にも文化に根ざした同等の価値があって、その違いを認め合い、アイデンティティーを持って発信し合おうという姿勢です。共通項のPlain Englishを確実に修得しつつ、自分らしい英語で堂々とコミュニケーションできる自信を身につけます。一度で通じることよりも、相手がわかっていなければ別の言い方で説明したり、自分がわからなかったら聞き直すなど、状況を見て調整していく力を重要視します。



Close Up 学びの特徴

【授業スタイル】

プロジェクト型の授業

英語そのものではなく、英語を使って何かを実行する力を育てるのが、Bunkyo GCIの英語教育の基本スタイルです。自分たちの大学を英語で紹介する大学案内制作プロジェクトや、国際交流イベントの企画・運営プロジェクトなどを行い、英語力をListening、Writing、Reading、Speaking等と分解することなく、常に何らかの目標を達成するための力として総合的に鍛えていきます。



プレゼンテーション&ワークショップを重視

それぞれが事前にリサーチし、その結果を持ち寄ってプレゼンテーションし、ディスカッションしていくワークショップ型の授業を日常的に行っています。内容も、まずは自分たちが生まれ育った国のことを調べ、それを英語で海外の人に伝えられることから始めていきます。



実際のグローバル英語にふれる機会が豊富

グローバル英語の考え方に基づいた英語学習を重視しています。英語科目群以外の授業でもグローバル英語にふれる機会が多くあります。GCI共通科目群では特別講師として世界の様々な国の方々を招聘し、各国の多様な英語にふれることのできる講義を予定しています。また留学やインターシップも世界の様々な国における大学・企業を予定しており、グローバル英語の実践学習の場を豊富に準備しています。



【英語教育システム】

教員は学習をコーディネートする役割

学習は受け身ではなく、主体となって進めてこそ、真の実力となるもの。Bunkyo GCIにおける英語教員とは、英語を教え込む先生ではなく、あなたのやりたい学びをコーディネートする役割です。



習熟度別にクラスを編成

英語運用力の習熟度によってクラスを編成。より上のクラスを目指して高いモチベーションで学び、ハイレベルなクラスはより高度な内容へと進んでいきます。

